1・2歳新設で待機児解消を公民館のあり方

立憲・市民フォーラム
星　いつろう

★「子育て」「働く」を支える＝経済の活性化
星）４月１日時点の待機児童数の状況説明を。
市）認可保育所を希望しても入れなかった人は158人（前年度比16人増）。その内、無認可保育所を含めていずれの保育施設にも預け先を確保できなかった人は24人（前年度比14人減）。
星）入所しづらい１歳児を中心とした低年齢児に特化する保育所を整備していただきたい。
市）１歳児以外では定員がうまらない状況が発生しているため、現時点では予定していない。
星）２次募集の当該市民の選考後に「空き」があれば、小金井市は他市の１歳児を「申込受付可」としている。１歳児の受け入れは、隣接市では唯一である。国分寺市のホームページからこの情報を発信していただきたい。「市内の保育園に落ちた場合の代替手段を探すのはとても時間を要する」とお聞きしてるため。
市）各市の取り扱いは、それぞれに内容が変更になる場合もあることから、当市のホームページへの掲載は難しい。
星）待機児童解消策の柱はなんなのか。
市）①定員の弾力的運用②ゼロ歳児の定員を調整し１歳児の定員を拡大する。この２点を保育事業者と調整・協議している。③来年度からベビーシッター利用支援を開始する。
星）子育て世代の「働く」を支えることは、市内の消費喚起や安定した市税収入の確保につながることも念頭に取り組んでいただきたい。
★恋ヶ窪公民館の今後の運営について
星）現市役所の移転後に、複合公共施設を建設し、恋ヶ窪公民館も入ることになる。そのタイミングで「貸会議室」的な機能に変更されてしまうのではないかと心配する声がある。
市）運営について基本的に変わることはない。
星）社会教育の専門資格をもった職員を配置していくという考え方でよいか。
市）引き続き同様の職員配置を想定している。

教育！市の魅力発信！働き方改革！

無会派（日本維新の会）
寺嶋　たけし

⑴宇宙事業（市の魅力発信＋科学教育！）
◆前提：国分寺市は日本宇宙開発発祥の地／来年は70周年記念の年！（記念事業実施予定）
◆現状：市の魅力として発信をしている。
◆理想：科学・理系人材の教育にもなる！
◆提案：事業目的に「科学・理系人材の教育」を加えて実施！⇒国分寺市から**日本の未来を担う理系人材を輩出**できるような取り組みを！
⑵役所の仕組み上のヒューマンエラー対策
◆現状：「どうミスをさせないか？」という視点での対策がメイン⇒これでは不十分
◆提案：「ミスをしない仕組み作り」「ミスをしてもカバー可能な仕組み作り」を実装！
⑶ふるさと納税（新たなチャレンジを！）
◆現状：流入額4,390万円VS流出額9.3億円※見込⇒どう流入額を伸ばすか！新たな試みは必須！
※本制度は国分寺市にとって不利
◆提案：**体験型返礼品**の実施／ポータルサイトの再検証／「**見せ方／魅せ方**」を研究＆実施！
⑷学校外教育への支援及び教育格差対策
◆課題：現代社会は、収入の差が子どもたちの学力の差に繋がり、それがまた収入の差に繋がる傾向がある（格差の固定化の原因の一つ）
◆理想：子の学力が収入で左右されない状況
◆提案：（理想は教育バウチャー等だが）まずは部署間連携の強化で「教育」の課題深堀を
⑸安全安心な選挙の実施（選挙妨害関連）
◆課題：某政治団体のような「選挙妨害」は、市民生活へ物理的な危険を及ぼしかねない。
◆提案：警察や都選管との連携の一層の強化を
⑹市民へのDX推進、DX支援施策
◆前提：市のDXは役所と市民の両輪で成り立つ
◆現状：役所のDXは新庁舎移転を機に加速予定
◆理想：多くの市民がデジタルに触れ、利便性を実感できるきっかけが増える環境がある
◆提案：新たなスマホ講座実施（講師が学生または高齢者等）／サイバー犯罪セミナーの強化

避難所に衛生的で安全なトイレ環境を！

国分寺・生活者ネットワーク
高瀬　かおる

■防災について（問）公民館などの**二次避難所**は様々な配慮が必要な方が避難する。入念な受入れ準備を➡要配慮者のケアができる支援者と資機材の調達が課題。施設の具体的な活用方法も整理が必要。関係部署と連携（問）能登では**「福祉避難所」**となる施設が被害を受け、開設に時間を要した。市でも多くの福祉団体と協定。イレギュラーな状況が発生した際に福祉避難所同士が連携できる検討も重要➡市と協定団体が定期的に協議の場を持つことが必要。横の連携もテーマに協議を進める（問）**平時からの女性の参画**を➡市民参加型の地区防災センター開設訓練を来年２月に実施予定。地域団体に声かけ、災害時に職員と共に行動する方を増やしたい。改善点等を意見交換する過程で女性の参画を充実する■**地域福祉コーディネーター**の配置から６年目。今後の展開は？➡個別支援と地域支援を一体的に行い、様々な方と築いた関係から解決の難しい相談も届くようになった。振り返りも含めた活動報告書を作成中。この取組は地道な継続が鍵。関係機関と密接に連携し進める。
■**日中一時支援事業の報酬**は、10年以上据え置き。介護を行う方の疾病や休息等のため、障害者が一時的に入所できる事業だが、安全に事業が継続できるよう、物価高騰や最低賃金の上昇も踏まえ見直しを➡重要な事業。人材確保や質の確保に継続的に取組む必要がある。近隣自治体や各事業所の実施状況の把握に努めたい。
■**まちづくり条例**では、開発事業を行う事業者は、開発基本計画の内容を近隣住民に説明し、意見・要望を聴かなければならない。フェンスや電柱など条例に規定のない工作物は説明の必要はないが、条例には配慮事項が規定されている。設置後では素材や形態等の要望は難しい。良好な生活環境を享受するためにも、できる限りの事前説明と配慮が必要➡全ての事前説明は困難。一層の配慮を促すよう考えてみたい。

自分のまちを自分事として考える国分寺に！

国分寺・生活者ネットワーク
松岡　まり

◆市民の健康被害について◆
○新型コロナワクチン接種による健康被害認定数が増加している。予防接種健康被害救済制度における国分寺市の認定数は？➡数件ある。
○副反応で悩まれている方に向け、西洋医学だけでなく代替療法や自己治癒力を高める視点での取組を取り入れてほしい。➡研究していく。
○今年度秋以降に定期接種となる新型コロナワクチン接種の案内には、効果と副反応の両方の情報を的確に分かりやすく明記してほしい。➡正確で十分な記載となるよう努める。
○本来の感染症対策は、細菌等の感染時に自己の免疫系がしっかり働く身体づくりをすることと考える。そのために腸活は効果的。親子みそづくり教室等の腸活に関する講座を取り入れてほしい。➡栄養講座等の中で取り入れられるか検討していく。
◆自治や分権を進めていくために◆
○地方自治法の改正によって、閣議決定で各大臣が自治体に「補充的な指示」ができる規定は、自治事務にまで及ぶ懸念がある。自分たちのまちのことは自分たちで決める地方自治の本旨に沿って取組むべき。➡地方自治法にある「自主性及び自立性が発揮されるようにしなければならない」等の規定を踏まえ、基礎自治体としての役割を全うする。
○法改正により、中央集権化や統制が強まると不安を抱く市民もいる。国分寺市自治基本条例が最高規範として機能していくよう、今後も市民と行政が一つになって考えていきたいがどうか。➡条例の理念に則り、協働を推進していく。
◆産前産後の支援について◆
○多胎児家庭への支援について、育児支援ヘルパーの派遣期間を３歳まで拡充してほしい。➡委託事業者の拡大が課題。研究していく。
○事業者委託先に地域の個人事業主等も加えてはどうか。➡事業者拡大に向けて検討していく。